

編集方針

積水ハウスグループ概要

過去10年間の財務・非財務ハイライト

I. ビジョン ESG 活動方針

トップコミットメント

グループの全体像(企業理念と価値創造の歴史)

NEXT SEKISUI HOUSE「30年ビジョン」

2050年を見据えたリスクと機会

積水ハウスグループのマテリアリティ

サステナビリティビジョン2050

ESG 経営の推進体制

ステークホルダーエンゲージメント

参画中の主たるイニシアチブ・団体等

2020年度社外からの主な評価

新型コロナウイルスへの対応

ビジョン・ESG 活動方針

60年の歴史、世界一の顧客基盤をもとに、「住」を基軸にグローバル企業を目指す積水ハウスグループには、社会的使命を胸に、長い時間軸の中で新しい価値、企業の未来像を語り続ける責務があると考えています。
グローバルビジョンに則り、経営資源を効率的に投下して、共有価値を創造しながらサステナブルな会社として存続し、成長していく決意です。

6	ビジョン・ESG 活動方針
7	トップコミットメント
11	グループの全体像(企業理念と価値創造の歴史)
13	NEXT SEKISUI HOUSE「30年ビジョン」
14	2050年を見据えたリスクと機会
16	積水ハウスグループのマテリアリティ
18	サステナビリティビジョン2050
19	ESG 経営の推進体制
20	ステークホルダーエンゲージメント
22	参画中の主たるイニシアチブ・団体等
23	2020年度社外からの主な評価
25	新型コロナウイルスへの対応

編集方針

積水ハウスグループ概要

過去10年間の財務・非財務ハイライト

I. ビジョン ESG 活動方針

トップコミットメント

グループの全体像(企業理念と価値創造の歴史)

NEXT SEKISUI HOUSE「30年ビジョン」

2050年を見据えたリスクと機会

積水ハウスグループのマテリアリティ

サステナビリティビジョン2050

ESG 経営の推進体制

ステークホルダーエンゲージメント

参画中の主たるイニシアチブ・団体等

2020年度社外からの主な評価

新型コロナウイルスへの対応



代表取締役
社長執行役員 兼 CEO
仲井 嘉浩

全従業員参加型「ESG 経営」で世界一幸せな場所づくりに邁進

コロナ禍で見えてきたもの

2020年4月7日、新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言が発令され、私たちの生活、社会、経済活動が一変しました。一年を経て、今も予断を許さない状況が続いています。新型コロナウイルス感染症により、お亡くなりになられた方々やご家族の皆様にご挨拶とお悔やみを申し上げます。また、罹患された方々、影響を受けられた皆様には、心よりお見舞いを申し上げます。そして、エッセンシャルワーカーとして支えてくださっている、すべての皆様に感謝申し上げます。積水ハウスグループは、お客様、お取引先、関係者の皆様、そして従業員の安全を最優先として、感染拡大の抑止のために必要な対応・対策を継続しながら、社会の発展に向けて全力で貢献する決意です。

積水ハウスグループは昨年3月、NEXT SEKISUI HOUSE「30年ビジョン」、そして第5次中期経営計画を発表しました。「住」を基軸に、融合したハード・ソフト・サービスを提供するグローバル企業を目指して第一歩を踏み出した矢先に、新型コロナウイルス感染症の脅威に直面しました。発令後すぐに営業活動を一部自粛しましたが、これまで推進してきたIT化のノウハウを発展・深化させ、効率的、機動的な在宅勤務などを取り入れ、業務に勤しめる環境を急ピッチでつくり上げました。お客様との接点づくりでは、電話やWEB会議を使ってお客様とコミュニケーションを図る仕組み「おうちで住まいづくり」を迅速に立ち上げ、現場からの要望に

応えてわずか3日でCMを制作しました。出演者は当社従業員というエピソードもあります。昨年2月には次世代室内環境システム「スマート イクス」の開発に着手。換気、空気清浄、プランニングを一体化し、シミュレーション動画で見える化した業界初のシステムを完成させ、12月に発売しました。

コロナ禍において、臨機応変に創意工夫をしながら対応した、各部署・各現場の従業員を大変誇らしく思っています。そして、それを支えたのは企業理念に掲げた、私たちの目標「最高の品質と技術～ニーズに合った商品を絶えず他にさきがけて開発する」という、脈々と受け継がれてきた私たちのDNAともいえる精神です。

積水ハウスグループの事業活動のキーワードは「幸せ」という価値の提供です。そして、家を「幸せ」のプラットフォームにする「プラットフォームハウス構想」の最初のテーマは「健康」。期せずして世界中の人々が自身の健康と向き合うこととなりました。私たちの着眼点に間違いはありませんでした。その方向性を再確認し、新たな時代の標準となる機能、役割を先取りする、「安心感」に包まれた「幸せ住まい」の追求に全力を傾けています。

全従業員参加による「ESG 経営」推進

新型コロナウイルス同様、地球規模での対応が急がれる気候変動。菅首相が2050年カーボンニュートラル宣言を行い、国は脱炭素社会の実現に向けて、大きく舵を切りま

トップコミットメント

編集方針

積水ハウスグループ概要

過去10年間の財務・非財務ハイライト

Ⅰ. ビジョン ESG 活動方針

トップコミットメント

グループの全体像(企業理念と価値創造の歴史)

NEXT SEKISUI HOUSE「30年ビジョン」

2050年を見据えたリスクと機会

積水ハウスグループのマテリアリティ

サステナビリティビジョン2050

ESG 経営の推進体制

ステークホルダーエンゲージメント

参画中の主たるイニシアチブ・団体等

2020年度社外からの主な評価

新型コロナウイルスへの対応

した。ZEH(ネット・ゼロ・エネルギー・ハウス)の累積棟数最多の積水ハウスは、脱炭素社会実現に向けた政府の意思表示に賛同します。国の施策と当社が進もうとしている方向性が合致していることは、当社にとって大きな励みであり、自信につながります。

「ESG 経営のリーディングカンパニーになる」と宣言した積水ハウスグループ。このけん引役が昨年6月に設置した「ESG 経営推進本部」です。SDGsも強く意識し、縦割りになりがちな「E: 環境」「S: 社会」「G: ガバナンス」の連携強化をリードしていきます。会社の中に ESG があるのではなく、ESG の中に会社がある。企業理念とも親和性の高い ESG をすべての事業活動と一致させようということです。半年ごとに実施している事業所社長表彰は、業績と ESG への取り組みを総合評価する制度に変更しました。そして、ESG 経営を進めるにあたっての重要課題として「5つのマテリアリティ」を特定しました。企業理念や DNA、大切にしている価値観、これからの世界情勢や事業環境を踏まえ、改めて見直し、整理したものです。全従業員参加による ESG 経営を推進することでグローバルビジョンを実現する。進むべき道がより明確になりました。この指針に則り、経営資源を効率的に投下して、共有価値を創造しながらサステナブルな会社として存続し、成長していく決意です。

強いリーダーシップのパイプラインづくり

これまでに250万戸を超える建築戸数を積み上げてきた当社は、すべてのお客様の生涯に寄り添うために、存続していかねばなりません。次世代の経営者、リーダーの戦略的

な育成は不可欠な課題です。そのために、執行役員制度を改革しました。私が思い描くのは、監督機能と執行機能の緩やかな分離です。取締役会が担うのは独立性向上による経営監督機能の強化であり、中期経営計画の達成です。執行の責任は執行役員等に委譲します。執行役員、部長の責任意識が変われば、支店長、さらに店長へと伝播します。私は、「強いリーダーシップのパイプラインづくり」と呼んでいます。こうした仕組み、体制を駆伝の櫂のようにしっかりとつないでいく。それが持続可能性の鍵になると考えています。

また、今年を「人事制度改革元年」と位置付けました。目的は「自分のキャリアは自分でつくる」という自律的、自発的な行動への意識付けです。頑張る従業員を会社は惜しみなくサポートする一方、権威主義のリーダーは幹部に登用しないと伝えています。ガバナンスの観点での「インテグリティ」と「グリット(やり抜く力)」、そして「人材育成力」。この3つは、これからのリーダーの必須条件です。

大義のあるイノベーションで未来へ

ガバナンス強化に向けて、社内における各部門や階層を超えた風通しの良い連携、また、社外パートナーとの意思疎通が必要であると考え、「イノベーション&コミュニケーション」をスローガンに掲げ、コミュニケーションの活性化に取り組んできました。変化を機会にするマインドは ESG 経営に不可欠なものと認識していますが、コロナ禍ではその重要性はより深まっていると実感しています。積水ハウステクノロジーの「移植」に取り組む国際事業においても、米国、

英国、オーストラリアなどで住宅に求める性能の変化、市場開拓への確かな手応えを感じています。「イノベーション&コミュニケーション」に国境はありません。

今後、重視するのは社会課題を解決する「大義のあるイノベーション」です。大義があれば、垣根を越えたアライアンスが進み、新たな発想が生まれると考えています。25道府県の自治体、パートナー企業38社との事業連携を進める地方創生事業「Trip Base道の駅プロジェクト」、世界初の在宅時急性疾患早期対応ネットワーク「HED-Net」、ブロックチェーン技術を活用した賃貸契約の効率化に向けた協創などが代表事例です。また、持続可能な社会の実現には、ダイバーシティの推進が欠かせません。役員や職責者、管理職に占める女性の割合は着実に増加しており、さまざまな部門で能力を発揮してくれています。今後も女性管理職への登用促進に向けた研修、女性正社員比率の向上を推進します。

60年の歴史、世界一の顧客基盤をもとに、「住」を基軸にグローバル企業を目指す積水ハウスグループ。私たちに常に社会的使命を胸に、長い時間軸の中で新しい価値、企業の未来像を語り続ける責務があります。気候変動、生態系の危機などメガトレンドへの意識、心構えはグローバルビジョンに集約し、個々の対策は中期経営計画に組み込んでいます。「『わが家』を世界一 幸せな場所にする」。そのために、技術の進化だけを追求するのは間違いです。「健康」「つながり」「学び」もキーワードになります。お客様一人ひとりにとって大切なものは何なのか? 私たちはお客様の「幸せ住まい」、世界の「幸せ住まい」の実現に向かって知恵を絞り、世界一幸せな場所をお届けしていきます。

編集方針

積水ハウスグループ概要

過去10年間の財務・非財務ハイライト

I. ビジョン ESG 活動方針

トップコミットメント

グループの全体像(企業理念と価値創造の歴史)

NEXT SEKISUI HOUSE「30年ビジョン」

2050年を見据えたリスクと機会

積水ハウスグループのマテリアリティ

サステナビリティビジョン2050

ESG 経営の推進体制

ステークホルダーエンゲージメント

参画中の主たるイニシアチブ・団体等

2020年度社外からの主な評価

新型コロナウイルスへの対応



代表取締役
副会長執行役員
財務・ESG 部門、
TKC 事業担当
堀内 容介

ESG 経営を推進し、未来社会に受け入れられる会社に

「創発型 ESG」を全従業員参画で推進

積水ハウスグループは、「『わが家』を世界一 幸せな場所にする」をグローバルビジョンに掲げ、ビジョン達成のため「ESG 経営のリーディングカンパニー」を目指しています。これはすべての事業活動を「E: 環境」「S: 社会」「G: ガバナンス」と一致させ、企業としてはもちろん、全従業員が ESG を体現し、持続可能な社会の構築に貢献していく思いを込めた宣言です。

昨年6月、ESG 経営の旗振り役を担う「ESG 経営推進本部」を立ち上げるとともに、専門的な知見を有する社外委員や社内取締役、職責者等で構成する「ESG 推進委員会」を設けました。ESG 経営の取り組みの進捗と課題等について意見交換を行い、実効性を高めています。傘下には「E」「S」「G」の3部会を設置し、それぞれの活動方針を検討・立案し、全事業所、全グループ会社に徹底を図る体制です。会社の中に ESG があるのではなく、ESG の中に積水ハウスグループが存在する。その構図を社内外に示す重みのあるフォーメーション、グループ全体を動かす仕組みが整ったので、次に具体的なアクションとして3つの要素を掲げました。「先進的な取り組み」へのさらなるチャレンジ。その結果として「社外評価」獲得。そして、リーディングカンパニーを目指す上で不可欠かつ最重要なテーマ「全従業員の参画」です。

「全従業員の参画」につなげるには、グローバルビジョンの意味するところ、すなわち本質を理解する必要があります。

そして ESG を自分ごととして考える。この1年、まずは幹部を対象に「ESG 対話」を行ってきました。テーマは「幸せ」。お客様はもちろん、家族や従業員、取引先など、あらゆるステークホルダーを、事業を通じて「幸せ」にするにはどうすれば良いか? 抽象的ですが、これを4~5人で「議論」するのではなく「対話」する。人の意見を否定せず、肯定的に受け止める。正解がないので、自問自答し、自分の言葉で話す。こうした感覚を、従業員一人ひとりが ESG 推進の当事者かつ主役として身につけ、自分ごと化していくことが狙いです。

ESG は、私たち一人ひとりの日常の言動、大きく言えば生き方とも関係します。規則や上からの押し付けで浸透できるものではありません。教育や研修、言葉で伝えるだけでも不十分です。全従業員が自分ごととしてとらえ、自然と自主的な行動に移せるような環境づくりが大切です。これを私たちは「創発型 ESG」と呼んでいます。現在、この感覚をステークホルダーの皆様とも共有していこうと考え、取り組んでいます。

特定したマテリアリティを KPI と連動

ESG 経営のリーディングカンパニーとしてグローバル企業を目指す。そのために何を重視し、どのような価値を創造し、どのような方法で社会にお届けすればいいのか。その方向性を示す「5つのマテリアリティ(重要課題)」を特定しました。

積水ハウスは、2005年に「サステナブル・ビジョン」を策

トップコミットメント

編集方針

積水ハウスグループ概要

過去10年間の財務・非財務ハイライト

Ⅰ. ビジョン ESG活動方針

トップコミットメント

グループの全体像(企業理念と価値創造の歴史)

NEXT SEKISUI HOUSE「30年ビジョン」

2050年を見据えたリスクと機会

積水ハウスグループのマテリアリティ

サステナビリティビジョン2050

ESG経営の推進体制

ステークホルダーエンゲージメント

参画中の主たるイニシアチブ・団体等

2020年度社外からの主な評価

新型コロナウイルスへの対応

定し、「持続可能性」を経営の基軸に据えた事業活動を推進してきました。2008年には、すべての住宅のライフサイクル全体におけるCO₂排出量ゼロを目指す「2050年ビジョン」を発表しています。また、「人間愛」を根本哲学とする企業理念に謳っている「相手の幸せを願い、その喜びをわが喜びとする奉仕の心」は「お客様本位」の姿勢とともに、積水ハウスのDNAとして企業風土の中にしっかり根付いています。これらの実績、資産を受け継ぎながら、自らに課せられた使命を今日的なESG視点から再確認、再構築し、その課題に対しての行動を「マテリアリティへの取り組み」として改めて明示したということです。

マテリアリティは社内での討議・検討を重ねた上で、「ESG推進委員会」で議論し、最終的に取締役会で承認するというプロセスを踏みました。単なる掛け声、スローガンに終わらせぬよう、期間を定めて進捗度合いを評価するKPIも設定していきます。その達成度合いは今後、定期的に開示する方針です。こうした姿勢もESG経営を深化させる上で重要であり、私たちの社会的責任の一つだと自覚しています。

役員報酬に関しても、ESG経営指標に基づく業績連動型への制度改革を行いました。ESG経営に取り組むのではなく、リードする。経営トップから国内外のグループ会社の従業員に至るまで一丸となって歩を進める。まさに、積水ハウスグループの「多様なチカラを結集する」ことがリーディングカンパニーへの最善、最短の道だととらえています。

新たなグリーン市場を創出する

政府が2050年脱炭素社会実現という政策目標を表明し

たことで、日本社会にさまざまな変化が生まれています。住宅分野でも、省エネルギー基準適合の早期義務化への議論が始まりました。そうした中、新築戸建住宅の9割をZEH(ネット・ゼロ・エネルギー・ハウス)が占め、世界の累積建築棟数を誇る積水ハウスは、賃貸住宅のZEH化を本格的にスタートさせました。私たちが手掛ける賃貸住宅「シャームゾン」のZEHは、現在、日本全体の賃貸ZEH棟数の約4割。市場をけん引する積水ハウスがギアを上げれば、業界の動きも活発になるはず。カーボンニュートラルを目指す日本社会にインパクトを与えるに相違ありません。都市部に遊休地を保有する企業には、投資効率からだけでなく、ESG視点からの土地活用を提案できるようになります。社員寮としての活用は、従来の福利厚生だけでなく、「社員のZEHへの入居率が上がる=ESG評価につながる」という発想にもつながります。新たなグリーン市場の誕生です。シャームゾンZEHの入居率は、ほぼ100%。空室待ちの状況が続いています。若い世代を中心とした入居者の方々、オーナー様の環境意識の高まりも、市場拡大の追い風になると実感しています。

積水ハウスグループの中期経営計画の基本方針は「コアビジネスのさらなる深化と新規事業への挑戦」です。私たちの事業活動と社会の接点は、時代の潮流ともマッチし、より広く深く、多面的に広がっています。新型コロナウイルス感染防止対策により、テレワーク、在宅勤務が一般的になり、「健康経営」も一層重要になってきました。これからは、わが家が経済活動の場にもなります。気候変動やパンデミックなど地球規模の課題にもしっかりと向き合い、答えを用意していく責任があります。そして何より大切な

は、お客様にお選びいただいた住宅メーカーとして、お客様ご家族に生涯の「幸せ」をお届けすることであり、社会に必要とされる企業として健全な持続成長を続けることです。

時代の先を読み「グッドカンパニー」へ

「社外からの評価」にも敏感でなければなりません。2021年に入ってから、女性活躍推進に優れた企業で構成される「なでしこ銘柄」、S&P Global社のサステナビリティアワードの最高評価「Gold Class」に選定されるなど、国内外から評価を受けています。私たちが目指すESG経営のリーディングカンパニーは、必ずしもビッグカンパニーではありません。誰が見ても良い会社「グッドカンパニー」です。未来に責任を持ち、未来社会に受け入れられる会社になりたい。だからこそ、時代の先を読み、社会の変化をリードする先進的な活動に邁進する。その方向に間違いはないか。今後も客観的な立場からの評価を注視し、経営のあり方を日々チェックしていく考えです。

今年度から、「サステナビリティレポート」をWEBサイト・ファーストで制作します。しっかりお伝えしたい情報は、詳しく、分かりやすく、最新のデータで迅速に。そうした思いからの選択です。積水ハウスグループは、「イノベーション&コミュニケーション」を合言葉に改革に取り組んでいます。ESG経営推進に当たっても、活発なコミュニケーション、情報発信を基本に、会社の仕組み、取り組み、物事の決定プロセスを含め、あらゆる場面で多種多様なイノベーションを起こしていく決意です。

グループの全体像(企業理念と価値創造の歴史)

創業以来の想いが込められた企業理念「人間愛」と創業60年を機に新たに掲げたグローバルビジョン

積水ハウスグループが1989年に定めた企業理念は社会環境が大きく変化する中で、あるべき姿を絶えず追求する精神・行動に弛緩が生まれていないか、顧客本位の姿勢で接しているか、顧客や関係する人々の暖かい支援に感謝するとともに、革新と発展を続ける積水ハウスを創っていかうとの想いを込めてつくられました。そして、2020年に発表した『『わが家』を世界一 幸せな場所にする』というグローバルビジョンのもと、「住」を基軸に、融合したハード・ソフト・サービスを提供するグローバル企業へと着実に変革を進めていきます。

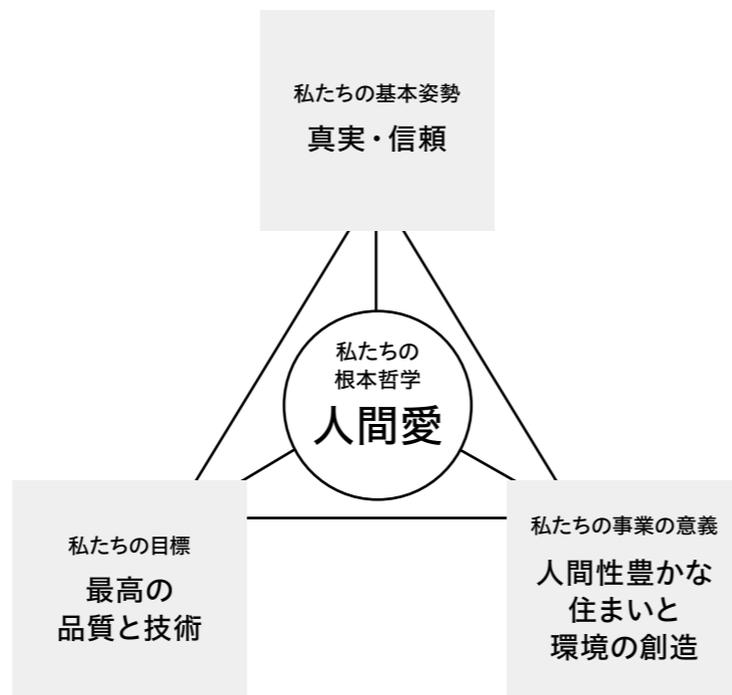
- 編集方針
- 積水ハウスグループ概要
- 過去10年間の財務・非財務ハイライト

I. ビジョン ESG 活動方針

- トップコミットメント
- グループの全体像(企業理念と価値創造の歴史)**
- NEXT SEKISUI HOUSE「30年ビジョン」
- 2050年を見据えたリスクと機会
- 積水ハウスグループのマテリアリティ
- サステナビリティビジョン2050
- ESG 経営の推進体制
- ステークホルダーエンゲージメント
- 参画中の主たるイニシアチブ・団体等
- 2020年度社外からの主な評価
- 新型コロナウイルスへの対応

企業理念(根本哲学「人間愛」)

「人間は夫々かけがえない貴重な存在である」という認識の下に、相手の幸せを願い、その喜びを我が喜びとする奉仕の心を以って何事も誠実に実践する事である」という「人間愛」を根本哲学としています。全従業員での討議を経て、1989年に制定しました。



積水ハウスのグローバルビジョン

「わが家」を世界一 幸せな場所にする



ハード・ソフト・サービスを
融合し幸せを提案



ESG経営の
リーディングカンパニーに



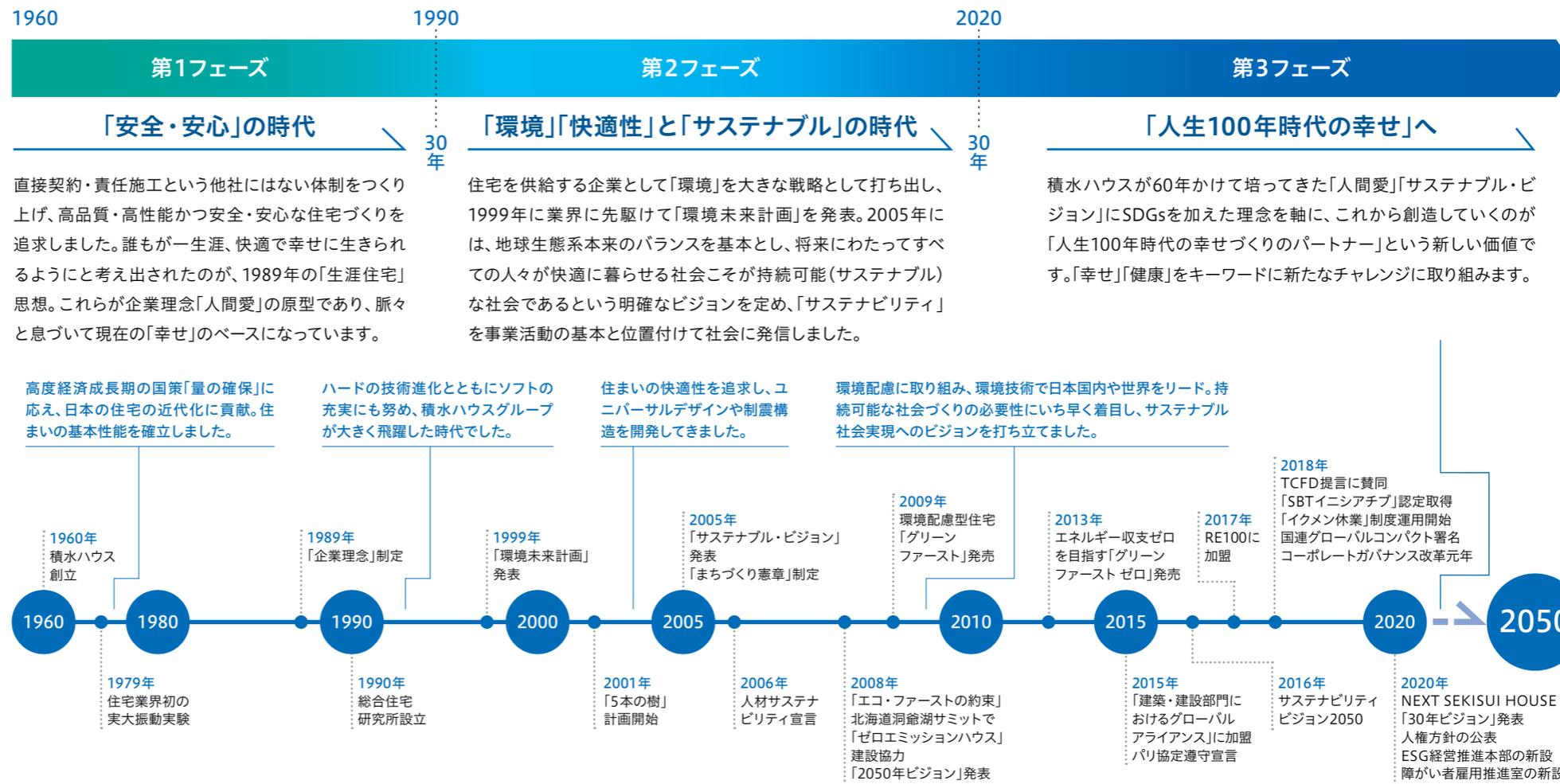
積水ハウステクノロジーを
世界のデファクトスタンダードに

住を基軸に、
融合したハード・ソフト・サービスを提供するグローバル企業へ

グループの全体像(企業理念と価値創造の歴史)

30年を一区切りとする価値創造の歴史

積水ハウスグループは、企業理念「人間愛」を礎に社会の変化やニーズに即応し、価値を創造・提供してきました。その根底には、「生涯幸せに暮らすもの」「お客様の生命と財産を守るもの」「地球環境を保護し、生態系を生かすもの」といった、60年の歴史の中で刻まれた「住まいのあり方や役割」に関する哲学が息づいています。



- 編集方針
- 積水ハウスグループ概要
- 過去10年間の財務・非財務ハイライト

I. ビジョン ESG活動方針

トップコミットメント

グループの全体像(企業理念と価値創造の歴史)

NEXT SEKISUI HOUSE「30年ビジョン」

2050年を見据えたリスクと機会

積水ハウスグループのマテリアリティ

サステナビリティビジョン2050

ESG経営の推進体制

ステークホルダーエンゲージメント

参画中の主たるイニシアチブ・団体等

2020年度社外からの主な評価

新型コロナウイルスへの対応

NEXT SEKISUI HOUSE「30年ビジョン」

2050年に向けた NEXT SEKISUI HOUSE「30年ビジョン」

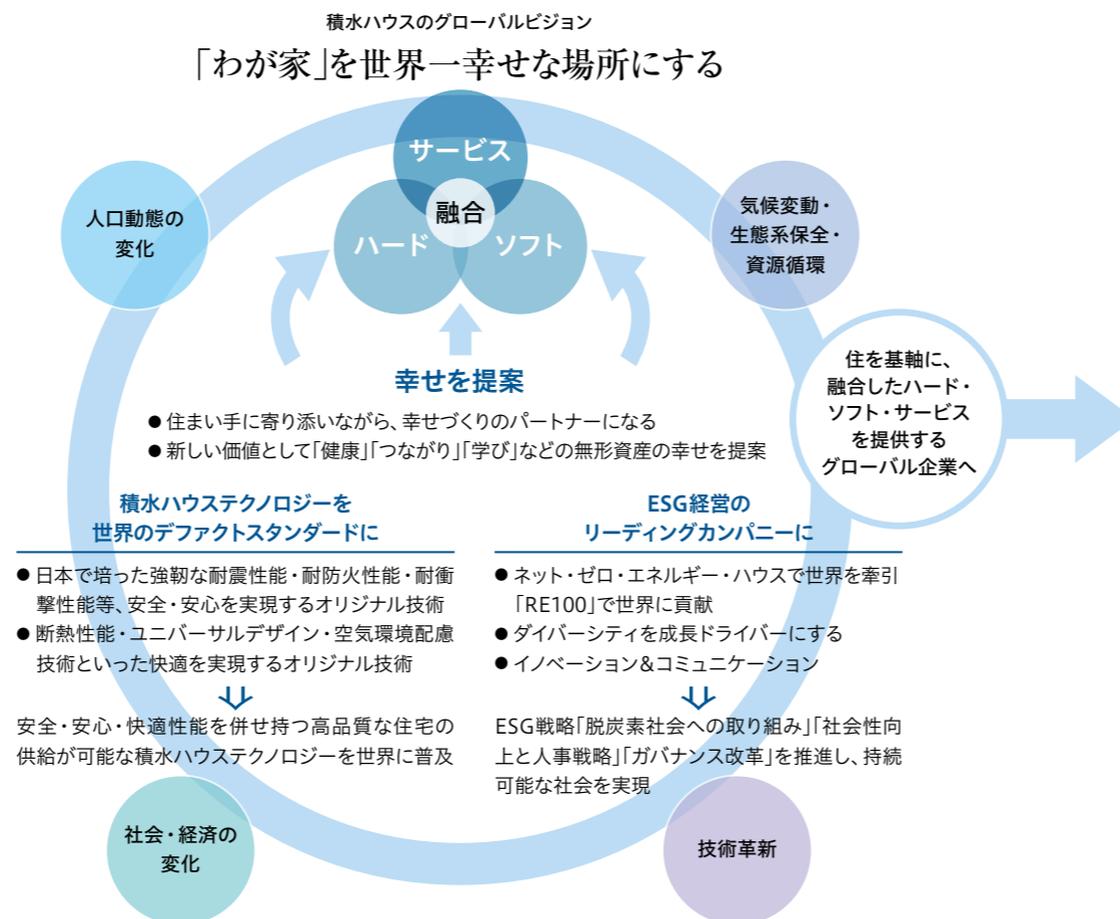
気候変動、技術革新、社会構造など、市場環境が著しく変化し、未来が見通しにくくなっている昨今。積水ハウスグループは長期ビジョンの目標年である2050年に向けて着実に歩みを進めるため、NEXT SEKISUI HOUSE「30年ビジョン」を策定しました。「『わが家』を世界一幸せな場所にする」というグローバルビジョンを掲げ、住を基軸に、融合したハード・ソフト・サービスを提供するグローバル企業として、お客様、従業員、社会の「幸せ」を最大化する取り組みを推進します。

- 編集方針
- 積水ハウスグループ概要
- 過去10年間の財務・非財務ハイライト

Ⅰ. ビジョン ESG 活動方針

- トップコミットメント
- グループの全体像(企業理念と価値創造の歴史)
- NEXT SEKISUI HOUSE「30年ビジョン」**
- 2050年を見据えたリスクと機会
- 積水ハウスグループのマテリアリティ
- サステナビリティビジョン2050
- ESG 経営の推進体制
- ステークホルダーエンゲージメント
- 参画中の主たるイニシアチブ・団体等
- 2020年度社外からの主な評価
- 新型コロナウイルスへの対応

NEXT SEKISUI HOUSE「30年ビジョン」



2050年のありたい姿

お客様、従業員、社会の「幸せ」を最大化する

	お客様の幸せ	従業員の幸せ	社会の幸せ
環境	<ul style="list-style-type: none"> ● 省エネルギー ● エクステリアの充実 ● エネルギーの確保 ● 「RE100」(余剰電力の買い取り) 	<ul style="list-style-type: none"> ● 省エネルギー ● 「RE100」(事業用エネルギーの再エネ化) 	<ul style="list-style-type: none"> ● 気候変動による災害の抑制 ● 温暖化防止 ● エクステリアの充実による緑化 ● 地域コミュニティの充実
社会	<ul style="list-style-type: none"> ● 健康・つながり・学びの創出 ● ユニバーサルデザイン ● 快適で安全・安心な住まい・まちづくり ● 災害に強い住宅 ● 高齢者などに配慮した豊かな暮らし 	<ul style="list-style-type: none"> ● 健康経営 ● ダイバーシティ ● 柔軟な働き方 ● 人材の育成 ● 人権の尊重 	<ul style="list-style-type: none"> ● 地方創生 ● 防災・減災の社会 ● 良質なストック市場 ● 人権の尊重 ● ダイバーシティ
ガバナンス	<ul style="list-style-type: none"> ● お客様に対し誠実で信頼される企業 	<ul style="list-style-type: none"> ● 公正公平な企業文化 ● 安全に安心して働ける職場風土 ● イノベーション&コミュニケーション 	<ul style="list-style-type: none"> ● 社会から信頼される企業 ● 平等で公正公平な社会

目指す社会

脱炭素社会 **人と自然の共生社会** **資源循環型社会**
健康・長寿先進社会 **ダイバーシティ社会**

2050年を見据えたリスクと機会

編集方針

積水ハウスグループ概要

過去10年間の財務・非財務ハイライト

I. ビジョン ESG 活動方針

トップコミットメント

グループの全体像(企業理念と価値創造の歴史)

NEXT SEKISUI HOUSE「30年ビジョン」

2050年を見据えたリスクと機会

積水ハウスグループのマテリアリティ

サステナビリティビジョン2050

ESG 経営の推進体制

ステークホルダーエンゲージメント

参画中の主たるイニシアチブ・団体等

2020年度社外からの主な評価

新型コロナウイルスへの対応

2020年は新型コロナウイルス感染症の大流行という新たなリスクに世界中が脅かされる一年となりました。加速度的スピードで社会状況が変化中、事業を通じて価値を創出するためには、現状の予見可能性をベースとした計画立案だけでは不十分と考えられます。積水ハウスグループでは「持続可能性」を軸に、価値創造に影響をもたらす中長期の課題を分析し、リスク要因を洗い出すとともに、それを将来の事業創出の機会でもあると位置づけ、中長期の事業戦略立案に反映しています。

「環境」におけるリスクと機会

※TCFDに対する当社の対応について

TCFD(気候関連財務情報開示タスクフォース)とは、投資家に適切な投資判断を促すための、効率的な気候関連財務情報開示のための枠組みのことです。積水ハウスは2019年12月、非金融企業において日本で初めて「TCFDレポート」を発行しましたが、2021年は統合報告書にTCFDレポートパートを設けて開示しています。 <https://www.sekisuihouse.co.jp/company/financial/library/annual/>

ESGのメガトレンド		次の30年	住宅・建設産業にとってのビジネス環境	リスク	機会	
環境	気候変動*	世界	気温が慢性的に上昇する 気候変動が進行する	猛暑により生活しにくくなる	猛暑に耐えやすい生活環境へのニーズが高まる	
				猛暑により生産・施工現場などで生産性が低下する	働きやすい職場の競争力が増す	
		世界	突発的な異常気象が増加する	自然災害が甚大化する	耐久性の高い住宅へのニーズが高まる	
	世界	脱炭素化の流れが加速する	住宅の脱炭素化が主流化する	炭素税が導入される	低炭素型ビジネスの競争力が増す	
	生態系保全	世界	気候変動により生態系が変化し、絶滅種が増える	緑化植物の植生域、適応域が変化する	建設時の地域生態系への配慮がより求められる、従来とは異なる植生になる	植樹による生態系保全へのニーズが高まる 認証材への認知が進み、調達容易になる
		世界	淡水不足の地域が増える	水資源に関する地域差が拡大する	節水しやすい建物や設備が求められる	節水型住宅設備へのニーズが高まる
資源循環	世界	天然資源の減少が進む	天然資源に関する選択肢が変化する、減少する	リサイクルの諸規制が強化される	資源循環型ビジネスの競争力が増す	
	世界	脱プラスチック社会への意識変化が進む	新たな素材やリサイクル技術の普及・開発が進む	化石燃料由来プラスチック廃棄物の処理コストが増加する		

リスクと機会

「社会・経済」におけるリスクと機会

ESGのメガトレンド		次の30年	住宅・建設産業にとってのビジネス環境	リスク	機会	
社会・経済	パンデミック対応	世界	伝染病や感染症が世界的に流行する	自宅で生活する時間が増える(在宅勤務・在宅学習・Eコマース・フードデリバリー・ネット動画配信・フィットネスなど)、対面でのコミュニケーションの機会が減る	家庭内感染を削減する技術が必要になる、快適空間へのニーズが高まる	住宅の役割が広がる「職場」「学校」「店」「レストラン」「ジム」「劇場」
	人口動態の変化	海外	世界で人口が増加する	新興国や住宅不足の国の住宅需要が増える	カントリーリスクが高い、施工現場での人手不足が進む	市場の潜在規模が拡大する、短工期で省施工の住宅建設技術が求められる
		世界	世界で高齢化が進む	高齢の顧客や従業員の比率が高まる、住環境ニーズが変化する	高齢化に伴う安全や健康面のニーズが増加する、建設・介護・ケア人材が不足する	高齢者の健康に配慮した住宅や職場の競争力が高まる、介護・ケア事業への支援ニーズが高まる
		世界	世界で移民・労働者流入が増加する	移民の顧客や従業員が増える	住生活の不安定な人が増える 意思疎通コストが増加する	住宅や労働市場が活性化する、多様な人材を受け入れられる職場へのニーズが高まる
		日本	日本では少子化で人口が減少する	市場規模が縮小し、建築需要が低減する、社会資本が変化する	新築着工戸数が減少する、管理物件の入居率が低下する、空き家問題が深刻化する	良質な住宅提供と都市移住、コンパクトシティが進むインバウンド需要が拡大する
	社会・経済の変化	日本	都市化が進む	地方の過疎化が進行する	都市での競争が激化する	地方創生へのニーズが高まる
		日本	所有から利用への移行が進む	不動産の賃貸市場が広がる	オーナー向けビジネスが減少する	良質な賃貸住宅へのニーズが上昇する
		世界	貧富格差の拡大・世帯別の所得格差の拡大が進む	中間層が縮小し、市場の分化が進む	富裕層向けビジネスの競争が激化する、ローコスト住宅が台頭する	ターゲット別、レンジ別の住宅ブランドの提供ニーズが増大する
		日本	男女の賃金格差の縮小が進む	家事労働の外部化が進む	保育・介護など家事の受け皿が不十分になる	保育・教育施設の需要、家事関連の市場が拡大する(保育・介護など)
		世界	働き方が多様化する	従業員の働き方のニーズが多様化する	ニーズに応えられない場合に離職率が上昇する	従業員満足度の高い職場の競争力が増す
世界		企業のグローバル化が加速する	現地とのパートナーシップとコアコンピタンスの現地化が進む	雇用や商慣行における、現地ニーズとの不一致が進む	オリジナル技術により社会課題を解決する	
世界		Z世代が消費のけん引役になる	環境や社会性を重視する顧客や従業員が増える	環境・社会関連の評判リスクが現在よりも先鋭化する	持続可能性に貢献する住宅へのニーズが高まる	
技術革新	世界	ビッグデータの活用、情報通信技術のスピード化が進む	フィンテックによる金融市場の大変革、技術に関する企業間連携が進む	顧客管理などセキュリティ対策への社会の要請が高まる	サステナビリティに貢献できる技術の競争力が高まる	
	世界	先端医療の利用機会が広がる	病気から復帰できる顧客や従業員が増える	医療技術への理解が求められる	健康や安全に配慮した住宅や職場の競争力が高まる	

編集方針

積水ハウスグループ概要

過去10年間の財務・非財務ハイライト

I. ビジョン ESG 活動方針

トップコミットメント

グループの全体像(企業理念と価値創造の歴史)

NEXT SEKISUI HOUSE「30年ビジョン」

2050年を見据えたリスクと機会

積水ハウスグループのマテリアリティ

サステナビリティビジョン2050

ESG 経営の推進体制

ステークホルダーエンゲージメント

参画中の主たるイニシアチブ・団体等

2020年度社外からの主な評価

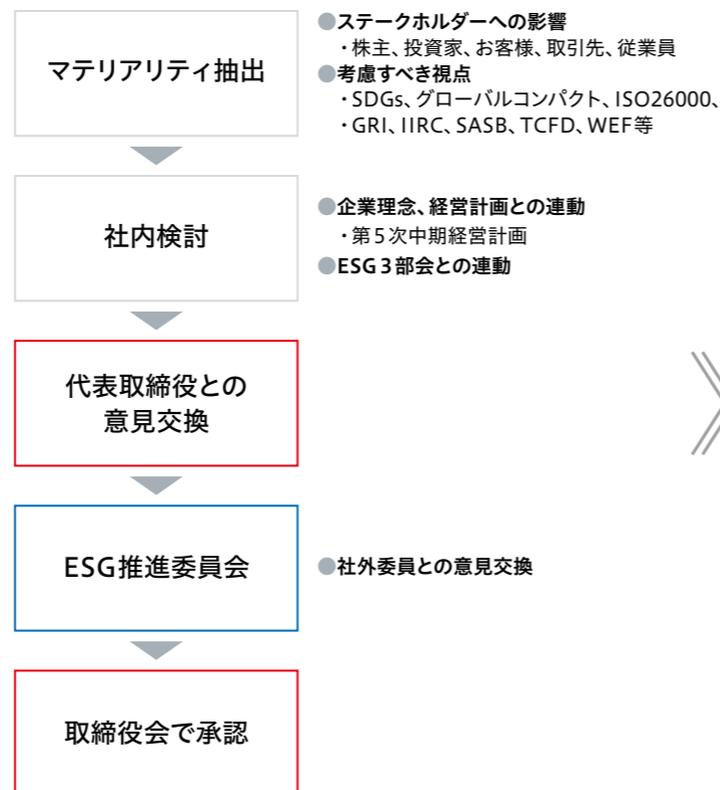
新型コロナウイルスへの対応

マテリアリティ

積水ハウスグループのマテリアリティ

積水ハウスグループは、ステークホルダーにとって重要であること、当社グループが経済・環境・人々に与えるインパクトの著しい課題をマテリアリティとして抽出しました。そのマテリアリティに対してどのように行動していくかを示そうと5つのマテリアリティの取り組みを掲げました。環境・社会への貢献という社会的責任に関する取り組みが、当社の場合、事業を通じた価値の創出に直接つながっていることに「強み」があると考えています。

マテリアリティの特定プロセス



マテリアリティ



5つのキーワード抽出
「マテリアリティへの取り組み」へ

- 編集方針
- 積水ハウスグループ概要
- 過去10年間の財務・非財務ハイライト

Ⅰ. ビジョン ESG 活動方針

- トップコミットメント
- グループの全体像(企業理念と価値創造の歴史)
- NEXT SEKISUI HOUSE「30年ビジョン」
- 2050年を見据えたリスクと機会
- 積水ハウスグループのマテリアリティ
- サステナビリティビジョン2050
- ESG 経営の推進体制
- ステークホルダーエンゲージメント
- 参画中の主たるイニシアチブ・団体等
- 2020年度社外からの主な評価
- 新型コロナウイルスへの対応

マテリアリティ

マテリアリティへの取り組み

誰もが人生で長い時間を過ごす「わが家」はすべての人の幸せに大きく影響します。しかし、近年は気候変動やパンデミックなどさまざまな社会課題により、幸せな生活が脅かされています。

世界で一番多くの「わが家」を提供してきた積水ハウスグループには、世界一幸せな場所を届ける責任も、チカラも、あると考えています。私たちの住宅や事業で、人々の幸せに貢献する、その使命を胸に、私たちは未来へ向けて、グローバルビジョンに

「わが家」を世界一 幸せな場所にする

を掲げました。このグローバルビジョンの実現を目指して5つのマテリアリティを特定し、決意と誇りを持って取り組んでいくことで、世界中の人々の「幸せ」に貢献していきます。

マテリアリティへ取り組むにあたり、SDGsの実現を強く意識しています。

キーワード	マテリアリティへの取り組み	関連するSDGs
環境	脱炭素社会を先導する	7, 13, 11, 12, 15
住	「住」の可能性を追求する	5, 12, 3, 11
コミュニティ	地域社会と共生する	3, 11, 4, 8
人	多様なチカラを結集する	5, 8, 3, 10
組織	インテグリティを体現する	16, 17



- 編集方針
- 積水ハウスグループ概要
- 過去10年間の財務・非財務ハイライト

Ⅰ. ビジョン ESG 活動方針

- トップコミットメント
- グループの全体像(企業理念と価値創造の歴史)
- NEXT SEKISUI HOUSE「30年ビジョン」
- 2050年を見据えたリスクと機会
- 積水ハウスグループのマテリアリティ
- サステナビリティビジョン2050
- ESG 経営の推進体制
- ステークホルダーエンゲージメント
- 参画中の主たるイニシアチブ・団体等
- 2020年度社外からの主な評価
- 新型コロナウイルスへの対応

サステナビリティビジョン2050

2050年に向けた長期ビジョン「サステナビリティビジョン2050」(2016年に策定、2017年に更新)

NEXT SEKISUI HOUSE「30年ビジョン」や「5つのマテリアリティへの取り組み」にもつながるものでE(環境)・S(社会)に関する2030年・2050年の目標を設定しています。

目指す姿	2050年のチャレンジ目標	2030年の目標	ESGでの対応
脱炭素社会へ先導 化石燃料への依存を続けることなく、エネルギー問題に制約されず、質の高い安全な暮らしが可能な社会を実現します。 ➡ マテリアリティへの取り組み①「脱炭素社会を先導する」	住まいのライフサイクルにおけるCO2ゼロ 住宅という製品の、材料購入から生産、販売、居住、解体までのライフサイクル全体において、再生可能エネルギーの利用も含めて、CO2排出量をゼロにします。	SBT目標の達成 スコープ1、2およびスコープ3(カテゴリ11:居住)排出量をそれぞれ2013年度比で50%削減、45%削減することを目指します(SBT目標)。また、「RE100」加盟企業として事業活動で消費する電力の50%を再生可能エネルギーで賄います。 	E 環境
人と自然の共生社会へ先導 豊かな自然のネットワークは、私たちの暮らしを支える生態系サービスを守るだけでなく、人々の生活の質を改善し、つながりを強めることに貢献します。この機能を最大化し、人と自然の共生社会を実現します。	事業を通じた生態系ネットワークの最大化 森林減少をゼロにする(Zero Deforestation)ために「フェアウッド」調達100%を実現します。また、住宅建築、まちづくりにおける緑化を通じて、生態系保全、防災・減災、快適性など、自然が持つグリーンインフラ機能を賢く利用します。	生物多様性の主流化をリード 地域の生態系に配慮した在来種中心の植栽提案「5本の樹」計画に基づく植栽本数について、年間100万本規模を持続し、都市緑化の一層の拡大を進めるとともに、標準的な積水ハウスの住宅において、「フェアウッド」調達100%を目指します。 	E 環境
資源循環型社会へ先導 すべての人が安定した暮らしを送るため、技術や経済システムの革新によって、天然資源だけに依存しない、リサイクル資源を持続的に活用する循環型社会を実現します。	住まいのライフサイクルにおけるゼロエミッションの深化 住宅を良質な資産として育てるため、住まい方や社会変化に対応する適切なリフォーム・リノベーションを提供。これらの過程で発生する廃棄物について、業界連携による社会インフラレベルでのゼロエミッションを実現します。	循環型事業の制度整備加速 廃棄物処理法の特例制度「広域認定制度」の対象範囲を拡張しながらストックビジネスへの対応を充実。同時にITを活用し、廃棄物回収の電子管理システムなどで管理の精度向上と効率的で円滑な運営を進めます。 	E 環境
健康・長寿先進社会へ先導 安全・安心・健康な住まいを提供し、グローバルレベルでの地域の課題を解決するとともに、成熟社会・高齢社会の先進国として、誰もが健康で誇り高く生活できる社会の形成を目指します。 ➡ マテリアリティへの取り組み②「住の可能性を追求する」	住まいづくりを通じた健康・長寿の実現 安全・安心・快適に生きがいを持って住み続けられる、豊かな居住環境と地域コミュニティを整備し、良質な社会資産の形成に貢献します。「健康」「つながり」「学び」という無形資産を生み出し、長寿社会に寄与できる住まいづくりを実現し、最新技術の開発・活用により、住まいでの家庭内事故ゼロを目指します。	社会課題を見据えた新たな価値の創造 健康・長寿先進社会に向けて、社会における住宅の役割を継続的に果たすことを目指します。構造やインテリアなどの有形資産だけでなく「健康」「つながり」「学び」という無形資産に着目し、健康長寿をもたらす住まいづくりを推進して、人生100年時代の幸せを提供します。 	S 社会
ダイバーシティ社会へ先導 グローバルで多様な人々が互いに好影響を与え合いながら健康で幸せに活躍し、イノベーションを実現することにより、持続可能な社会の形成を目指します。 ➡ マテリアリティへの取り組み③「多様なチカラを結集する」	誰もが自分らしく能力を発揮できる社会の実現 多様な人々が、それぞれの個性を生かした能力を最大限発揮できる機会の提供と環境の整備を推進。イノベーション&コミュニケーションにより、社会に多様な価値を創出します。	ダイバーシティ & インクルージョンによる持続的成長 女性、障がい者、高齢者、外国人、LGBTQなど、さまざまな個性を生かし、持てる力を最大限に発揮できる経営を実践します。取り組みの成果、課題などを社会に開示してダイバーシティ経営の普及、促進に寄与します。 	S 社会

編集方針
 積水ハウスグループ概要
 過去10年間の財務・非財務ハイライト

Ⅰ. ビジョン ESG 活動方針

トップコミットメント
 グループの全体像(企業理念と価値創造の歴史)
 NEXT SEKISUI HOUSE「30年ビジョン」
 2050年を見据えたリスクと機会
 積水ハウスグループのマテリアリティ
サステナビリティビジョン2050
 ESG 経営の推進体制
 ステークホルダーエンゲージメント
 参画中の主たるイニシアチブ・団体等
 2020年度社外からの主な評価
 新型コロナウイルスへの対応

ESG 経営の推進体制

すべての事業活動を ESG と一致させる体制の整備

積水ハウスグループは『わが家』を世界一 幸せな場所にする」をグローバルビジョンに掲げ、ビジョン達成のため、「ESG 経営のリーディングカンパニー」を目指しています。このビジョンにはすべての事業活動を ESG と一致させ、持続可能な社会の構築やSDGsの実現に貢献していくとの想いを込めています。

ESG 経営の枠組み

積水ハウスグループは、2020年6月に ESG 経営推進部門（現 ESG 部門）を新設し、当社グループの ESG 経営に関する基本方針の企画・立案および推進に関する事項を掌握する「ESG 経営推進本部」を設置しました。この組織改編は、ESG 経営に関連する全社的な取り組みの推進にとどまらず、その支援や調整、情報の収集と分析、社内外への情報発信の一本化を図ることで、名実ともに「ESG 経営のリーディングカンパニー」として認知されるという決意表明です。

そして、取締役会の諮問機関として、「ESG 推進委員会」を設置しました。本委員会は、3ヵ月に一度のペースで開催し、ESG 経営について活発な議論を交わしています。委員長は ESG 部門担当役員とし、社内委員に有識者2人（社外委員）を加えて多様な視点から活動の充実を図っています。なお、ESG 推進委員会の内容は取締役会に報告され、審議しています。

ESG 推進委員会の構成

- ・委員長：ESG 部門担当役員（代表取締役 副会長執行役員）
- ・社外委員：2名
 國部克彦氏（神戸大学大学院 経営学研究科教授、神戸大学 V.School 長）、
 富田秀実氏（ロイドレジスター ジャパン株式会社 代表取締役）
- ・社内委員：ESG 経営推進本部長、ESG3 部会長・副部会長

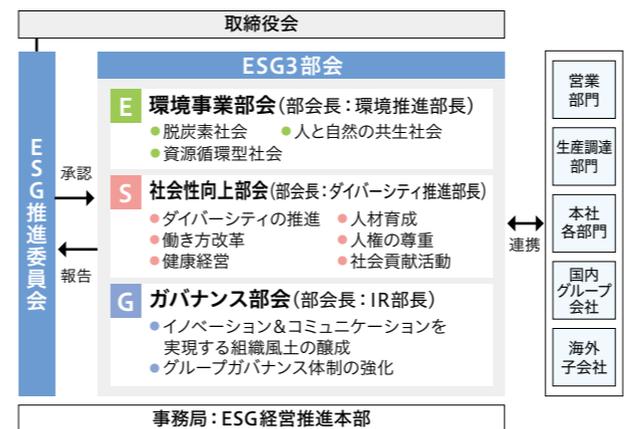
また、ESG 経営を推進するべく、「全従業員の参画」「先進的な取り組み」「社外評価の向上」をテーマに掲げました。ESG の中に当社があり、ESG 経営が企業そのものの活動になるよう、一人ひとりが理解を深め、お客様・社会の幸せのために取り組んでいきます。

ESG3 部会の設置

ESG 推進委員会に、その推進を担う3つの部会、「E：環境事業部会」「S：社会性向上部会」「G：ガバナンス部会」を設置しました。

ESG3 部会にはそれぞれ職責者を任命し、目標・KPI を設定しています。本3部会は、各部門・国内外のグループ会社

ESG 経営の推進体制



と連携しながら、ESG 経営の旗振り役として先導していくとともに、実効性ある取り組みを行います。そして、その取り組みについて、進捗報告と普及に向けた課題・改善提案のフィードバックを通じて、全従業員の理解・浸透を図ります。

社内浸透の取り組み

ESG 指標を組み込んだ事業所表彰制度

ESG 経営の全社的な推進を目的として、事業所社長表彰基準に ESG 指標を組み込みました。

2021年度上期(2~7月)の評価指標

- E：ZEH 比率、植栽率など
- S：二次健康診断受診率、平均総労働時間など
- G：社内監査の業務精度

ESG 対話の実施

『わが家』を世界一 幸せな場所にする」の「わが家」は、従業員にとっては「会社（職場）」と考えることもでき、従業員の幸せこそが ESG 経営の基盤といえます。

それを実践するために、「ESG 対話」を推進しています。対話は階層ごと、対話のテーマは「事業を通して、従業員・お客様・社会を幸せにするには、どうしたら良いか」です。

対話を進めることで、従業員のエンゲージメントを図り、コミュニケーションの活性化がイノベーションを創出し、さらなる企業価値の向上につなげることを目指しています。

編集方針

積水ハウスグループ概要

過去10年間の財務・非財務ハイライト

Ⅰ. ビジョン ESG 活動方針

トップコミットメント

グループの全体像(企業理念と価値創造の歴史)

NEXT SEKISUI HOUSE「30年ビジョン」

2050年を見据えたリスクと機会

積水ハウスグループのマテリアリティ

サステナビリティビジョン2050

ESG 経営の推進体制

ステークホルダーエンゲージメント

参画中の主たるイニシアチブ・団体等

2020年度社外からの主な評価

新型コロナウイルスへの対応

ステークホルダーエンゲージメント

ステークホルダーへの責任とコミュニケーション

積水ハウスグループの主なステークホルダーは「お客様」「消費者(潜在顧客)」「取引先」「従業員」「株主・投資家」「地域社会」などです。これらすべてのステークホルダーとの対話を重視し、課題や期待に応えるため、さまざまな手段を講じて、日常のコミュニケーションの活性化に取り組んでいます。

主なステークホルダーと果たすべき責任	エンゲージメント例	提起されたテーマ例	左記への対応
<p>お客様(オーナー様)に対して</p> <p>大切な資産が長く愛着を持って生かされるように、お客様第一の姿勢を貫き、コミュニケーションを大切にします。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● お客様アンケート実施 ● コミュニケーションツールとして情報誌発行 <ul style="list-style-type: none"> ・「きずな」(戸建・年2回) ・「Maisowner」(賃貸・年2回) ・「gm」(マンション・年3回) ● 「Netオーナーズクラブ」運営 	<ul style="list-style-type: none"> ● 住宅の長寿命化、お客様満足度の向上 ● アフターサポートの充実 ● 手入れしやすい、使いやすい外構提案・工事 	<ul style="list-style-type: none"> ● まちなみ評価制度「コモンズ」の運用 ● エクステリア事業成長に向けた全社横断連携の強化
<p>消費者(潜在顧客)の皆様に対して</p> <p>「人間性豊かな住まいと環境の創造」に向けて、信頼関係を築けるよう、積極的に情報開示を行います。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 総合住宅研究所「納得工房」 ● 住ムフムラボ ● 住まいの夢工場 ● 積水ハウス エコ・ファーストパーク ● すまい塾 ● 生活リテラシーブックなどを活用したダイアログの実施 	<ul style="list-style-type: none"> ● 住まいづくりのプロセス、ものづくりの現場の公開 ● 「住」による環境問題解決方法の見える化 	<ul style="list-style-type: none"> ● 住生活研究所設置 ● 「住ムフムラボ」での研究メンバー募集、ワークショップ開催 ● 研究施設の一部を公開 ● 「積水ハウス エコ・ファーストパーク」でのワークショップ・親子向けイベント開催
<p>取引先の皆様に対して</p> <p>お客様満足の実現を通じて共に発展していくために、公正で対等な取引に努め、温かい共存関係を育てます。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 「積水ハウス会」「セキスイハウス協会」組織化 ● 「方針説明会」開催(年1回) ● 「調達先評価」実施 ● 環境事業部会 サプライヤー分科会 ● CSR調達(CSR調達ガイドライン) 	<ul style="list-style-type: none"> ● 施工現場環境の改善(省力化、施工技能者の高齢化への対応) ● 納期確定精度の向上(資材・部材納入に当たって) 	<ul style="list-style-type: none"> ● 部材表示の改善、部材複合化・プレカット・プレセットの推進 ● WEBによる工程表のメーカーとの共有・入力徹底

編集方針

積水ハウスグループ概要

過去10年間の財務・非財務ハイライト

Ⅰ. ビジョン ESG 活動方針

トップコミットメント

グループの全体像(企業理念と価値創造の歴史)

NEXT SEKISUI HOUSE「30年ビジョン」

2050年を見据えたリスクと機会

積水ハウスグループのマテリアリティ

サステナビリティビジョン2050

ESG 経営の推進体制

ステークホルダーエンゲージメント

参画中の主たるイニシアチブ・団体等

2020年度社外からの主な評価

新型コロナウイルスへの対応

ステークホルダーエンゲージメント

主なステークホルダーと果たすべき責任	エンゲージメント例	提起されたテーマ例	左記への対応
<p>従業員に対して</p> <p>従業員が個々の能力を生かし、価値ある仕事を通じて創造的成長を遂げられるよう、多様な一人ひとりの個性を尊重し、公正かつチャレンジ精神を育む職場環境・制度を整備し、ES(従業員満足)の向上を図ります。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● ESG対話 ● イノベーション社内コンペ「SKIdeA(スカイディア)」 ● 社内公募制度・社内資格制度 ● ヒューマンリレーション研修(年1回) ● ガバナンス意識調査・幸せ度調査 ● 労働安全衛生マネジメントシステム ● WEB社内誌「ひと」 ● 従業員持ち株会「積水ハウス育資会」加入率83.9%(単体92.8%)、持株数17,939千株、持株比率2.63% 	<ul style="list-style-type: none"> ● 自律的なキャリア形成 ● 女性活躍の推進 ● 働き方改革 ● ワーク・ライフ・バランスの推進 ● 障がい者雇用の促進 ● 風通しの良い職場づくり ● 人権の尊重 ● 健康経営 	<ul style="list-style-type: none"> ● ESG経営の理解・浸透 ● 新評定制度 ● ダイバーシティの推進 女性管理職候補者研修「積水ハウス ウィメンズ カレッジ」ダイバーシティ交流会 ● 働き方改革 イクメン休業(特別育児休業)制度 ● 健康経営の方針策定 ● ヒューマンリレーション体制と全従業員研修
<p>株主・投資家の皆様に対して</p> <p>健全な成長による企業価値の向上と株主・投資家の皆様への利益還元のために、社会的価値の高い企業であり続けることを目指し、公正で透明性の高い企業経営を行います。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 決算発表・経営計画説明会 ● 機関投資家・アナリストとのミーティング ● 株主総会 ● 株主優待贈呈制度 ● 統合報告書(TCFDレポートパート含む) ● 「ビジネスレポート」(年2回) ● 「IRニュースメール」配信 	<ul style="list-style-type: none"> ● 株主様への利益還元 ● 経営戦略、経営計画に関する分かりやすい開示 ● フェアディスクロージャーの推進 ● WEB開示の充実 ● 英文による情報開示の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ● 中期的な平均配当性向40%以上 ● 経営計画説明会開催、質疑応答要旨発信 ● 工場等の施設見学会開催 ● ESG経営説明会 ● ステークホルダーミーティング
<p>地域社会に対して</p> <p>地球環境を守りつつ、すべての人が人間らしい豊かな暮らしを実現できるよう、地域の文化と豊かさを育み、住宅企業らしさを生かして、社会還元、協力と参画に努めます。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 従業員と会社の共同寄付制度「積水ハウスマッチングプログラム」 ● NPO法人西山卯三記念すまい・まちづくり文庫、NPO法人キッズデザイン協議会、などNPO法人への協力 ● 公益信託「神戸まちづくり六甲アイランド基金」 ● SDGs研修、事例発表 ● 小学生へのプログラミング教育 	<ul style="list-style-type: none"> ● 安全・安心な暮らし ● 防犯、防災につながるまちづくり ● 次世代育成(キッズファースト) ● 被災者や障がい者の自立支援 	<ul style="list-style-type: none"> ● コミュニティ形成支援(ひとえん) ● 災害時の復旧支援体制構築 ● 防災未来工場化計画 ● 新入社員による被災地復興支援活動 ● 被災地企業や障がい者福祉作業所の商品を購入して支援 ● SDGsの啓発 ● 子どもに対する住教育
<p>共通項目</p>	<p>コンプライアンスの徹底、環境配慮の徹底、説明責任の遂行</p>		

編集方針

積水ハウスグループ概要

過去10年間の財務・非財務ハイライト

I. ビジョン ESG活動方針

トップコミットメント

グループの全体像(企業理念と価値創造の歴史)

NEXT SEKISUI HOUSE「30年ビジョン」

2050年を見据えたリスクと機会

積水ハウスグループのマテリアリティ

サステナビリティビジョン2050

ESG経営の推進体制

ステークホルダーエンゲージメント

参画中の主たるイニシアチブ・団体等

2020年度社外からの主な評価

新型コロナウイルスへの対応

参画中の主たるイニシアチブ・団体等

国際的なイニシアチブへの参画や行政・業界団体等との活動

グローバル規模の社会課題の解決に貢献すべく、国際的なイニシアチブに積極的に参画しています。また、日本国内において、住宅・住環境の整備における当社グループの役割と責任は大きく、多くの業界団体の活動に参加しています。

参画中の主たるイニシアチブ

名称	ロゴ	活動内容
国連グローバル・コンパクト		企業に対し、人権・労働・環境・腐敗防止に関する10原則の順守・実践を要請する、国連が提唱したイニシアチブ／2018年9月に署名／グローバル・コンパクト・ネットワーク・ジャパン(GCNJ)の分科会にも参加
RE100イニシアチブ		事業活動で使用する電力を100%再生可能エネルギーで発電されたものとするを目標に掲げる、世界の主要企業が加盟する国際イニシアチブ／2017年10月に加盟(日本企業が2社目)
TCFDコンソーシアム		企業の気候変動への取り組みや影響に関する財務情報を開示するための枠組みがTCFD(気候関連財務情報開示タスクフォース)であり、賛同する企業による組織がTCFDコンソーシアム／2018年7月にTCFDへの賛同を表明し入会
SBTイニシアチブ		企業に対し、科学的根拠に基づいたCO ₂ 排出量の削減目標の設定を求めるイニシアチブ／2018年4月に認定取得
気候変動イニシアティブ(JCI)		気候変動対策に積極的に取り組む企業・自治体・団体など非政府組織のネットワーク／2018年7月設立時点から参加
日本気候リーダーズ・パートナーシップ(JCLP)		持続可能な脱炭素社会実現を目指す企業グループ／2016年8月に加盟
建築・建設部門におけるグローバルアライアンス(Global ABC)		建築、建設分野におけるゼロエミッション、高効率、レジリエントをめざす多くの企業、自治体、団体、NGOなどが参加する団体／2016年5月から参加
一般社団法人 企業と生物多様性イニシアティブ(JBIB)		生物多様性の保全及び持続可能な利用に関する意欲の高い企業によるイニシアティブ／設立当初(2008年4月)から参加

行政との活動

名称	参画している委員会等
国土交通省	社会資本整備審議会 建築分科会 建築環境部会 住宅・建築物のエネルギー消費性能の実態等に関する研究会
経済産業省	総合資源エネルギー調査会 集合住宅におけるZEHロードマップフォローアップ委員会

一般社団法人 ESG情報開示研究会

民間企業で構成する、社会の持続的な発展と、企業が自らの価値を高め成長することを調和させる仕組みの創造を目指したESG情報に関する研究活動に2020年7月から参画



業界団体等との活動

団体名 ★は当社が会長(議長・代表理事)を務める	参画している委員会等 ★は当社が委員長(代表)を務める
一般社団法人 日本経済団体連合会	常任幹事会・幹事会、都市・住宅政策委員会、女性の活躍推進委員会
公益社団法人 関西経済連合会	都市・観光・文化委員会、都市創造専門委員会、労働政策委員会、D&I専門委員会
大阪商工会議所	建設・建材部会、人材育成委員会
一般社団法人 住宅生産団体連合会★	理事会★、運営委員会★、住宅税制・金融委員会、住宅性能向上委員会★、建築規制合理化委員会、環境委員会、住宅ストック委員会、住情報委員会 工事・CS委員会、技能者問題検討委員会、国際交流委員会
一般社団法人 プレハブ建築協会	理事会、企画運営委員会、金融税制研究会、広報委員会★、教育委員会、教育実施委員会、瑕疵担保保険推進委員会、住宅部会 ほか
一般財団法人 住宅生産振興財団	理事会、事業運営委員会
一般社団法人 優良ストック住宅推進協議会★	理事会★、幹事会、企画&総務委員会、広報HP委員会、技術委員会、査定教育委員会
特定非営利活動法人 キッズデザイン協議会	理事会、運営会議、研究開発部会、標準化検討部会、顕彰部会 ほか
エコ・ファースト推進協議会	幹事会、運営委員会、情報交換会

編集方針

積水ハウスグループ概要

過去10年間の財務・非財務ハイライト

I. ビジョン ESG活動方針

トップコミットメント

グループの全体像(企業理念と価値創造の歴史)

NEXT SEKISUI HOUSE「30年ビジョン」

2050年を見据えたリスクと機会

積水ハウスグループのマテリアリティ

サステナビリティビジョン2050

ESG経営の推進体制

ステークホルダーエンゲージメント

参画中の主たるイニシアチブ・団体等

2020年度社外からの主な評価

新型コロナウイルスへの対応

2020年度社外からの主な評価

社外からの主な評価と受賞実績

※2021年度の受賞も一部含まれます。

サステナビリティ・ESG 経営

● ESG 評価機関からの評価

2020年2月 ロベコサム社による「SAM Sustainability Award 2020」住宅建設部門で「Silver Class」に選定
https://www.sekisuihouse.co.jp/library/company/topics/datal/_icsFiles/afieldfile/2020/02/06/20200206.pdf



2020年11月 ダウ・ジョーンズ サステナビリティ インデックスで「DJSI World (5年連続)」 「DJSI Asia Pacific (4年連続)」 「Industry Leader」に選定
https://www.sekisuihouse.co.jp/library/company/topics/2020/20201118_2.pdf



2021年2月 S&P Global社のサステナビリティアワードで「Gold Class」に選定
<https://www.sekisuihouse.co.jp/library/company/topics/2021/20210212.pdf>



また、世界最大の年金資産規模を有する年金積立金管理運用独立行政法人(GPIF)が選定した4つのESG指数全ての構成銘柄として、各指数が選定された当初から採用されています。

	FTSE Blossom Japan Index	MSCIジャパン ESGセレクト・リーダーズ指数	MSCI日本株女性活躍指数「WIN」	S&P/JPX カーボン・エフィシエント指数
GPIFが選定したESG指数				
指数カテゴリ	ESG(総合)	ESG(総合)	S(社会)	E(環境)
当社選定		2017年7月～		2018年9月～

E: 環境

● 令和2年度気候変動アクション環境大臣表彰「気候変動アクション大賞」(先進導入・積極実践部門/緩和分野)

2020年11月 主催：環境省
 [評価内容] 賃貸住宅のネット・ゼロ・エネルギー・ハウス(ZEH)市場の創出に向けた取り組み
<https://www.sekisuihouse.co.jp/library/company/topics/2020/20201102.pdf>



● 第2回「ESGファイナンス・アワード・ジャパン」(環境大臣賞)銀賞

2021年2月 主催：環境省
 [評価内容] 気候変動対応への情報開示やZEHの普及など事業戦略と一体化したESG経営
<https://www.sekisuihouse.co.jp/library/company/topics/2021/20210224.pdf>



● ウッドデザイン賞2020

2020年10月 主催：ウッドデザイン賞運営事務局 (ソーシャルデザイン部門 建築・空間分野)
 [評価内容] SGEC / PEFC全体認証住宅(日本初の1棟すべての使用木材でトレーサビリティが確保された木造住宅/ 合同会社森林認証のもりとの共同応募)
<https://www.sekisuihouse.co.jp/library/company/topics/2020/20201014.pdf>



S: 社会

● 令和2年度「なでしこ銘柄」

2021年3月 主催：経済産業省、東京証券取引所
 [評価内容] 女性管理職登用促進に向けた研修「積水ハウスウィメンズカレッジ」を2014年より開講し、約2年間のカリキュラムで計画的かつ着実に管理職に相応しい人材の育成に注力している
<https://www.sekisuihouse.co.jp/library/company/topics/2021/20210322.pdf>



編集方針

積水ハウスグループ概要

過去10年間の財務・非財務ハイライト

I. ビジョン ESG 活動方針

トップコミットメント

グループの全体像(企業理念と価値創造の歴史)

NEXT SEKISUI HOUSE「30年ビジョン」

2050年を見据えたリスクと機会

積水ハウスグループのマテリアリティ

サステナビリティビジョン2050

ESG 経営の推進体制

ステークホルダーエンゲージメント

参画中の主たるイニシアチブ・団体等

2020年度社外からの主な評価

新型コロナウイルスへの対応

2020年度社外からの主な評価

●健康経営優良法人 大規模法人部門(ホワイト500)(2年連続)

2021年3月 主催：経済産業省



●「イクメン企業アワード2020」グランプリ

2020年10月 主催：厚生労働省



[評価ポイント]
男性従業員の配偶者出産後3年以内に1カ月以上の取得を目指す独自の「イクメン休業」制度を制定。経営者主導の管理職層への働きかけなど、全社的な意識醸成に取り組んでいる。ほか

<https://www.sekisuihouse.co.jp/library/company/topics/2020/20201028.pdf>

●LGBTQの取り組みを評価する「PRIDE指標2020」でゴールド受賞(3年連続)

2020年11月 主催：任意団体「work with Pride」



<https://www.sekisuihouse.co.jp/library/company/topics/2020/20201111.pdf>

その他

●第23回 環境コミュニケーション大賞 環境報告部門「殿堂入り」企業に選定

2020年2月 表彰対象：サステナビリティレポート
主催：環境省、一般財団法人地球・人間環境フォーラム



https://www.sekisuihouse.co.jp/library/company/topics/datail/_icsFiles/afieldfile/2020/02/19/20200219.pdf

●第14回 キッズデザイン賞(賞創設以来、14年連続・累計93点の受賞)

2020年8月 主催：内閣府認証NPO法人キッズデザイン協議会

[表彰内容]
(子どもたちの創造性と未来を拓くデザイン部門)
●積水ハウスのキッズでざいん「コドモイドコロ」
●大網白里市子育て交流センター

(子どもたちを産み育てやすいデザイン部門)

- 関東住まいの夢工場 小林さんち。
- 子育て世帯の住環境提案 積水ハウスの賃貸住宅「シャーマゾン」に在宅ワークしやすい環境を



間仕切り壁を設け、在宅スペースを確保



「共感する暮らし」が見つけられる小林さんち。

- Open Village ノキシタ(株式会社AiNestとの共同応募)
- それ、こどもOSです(大阪府、株式会社ジャクエツ、ココヨ株式会社、特定非営利活動法人GIS総合研究所との共同応募)

<https://www.sekisuihouse.co.jp/library/company/topics/2020/20200821.pdf>

●2020年度グッドデザイン賞

2020年10月 主催：公益財団法人日本デザイン振興会



[表彰内容]

- engawa KYOTO
(イノベーションを支援する事業共創拠点・コワーキング施設/株式会社電通との共同受賞)
- 分譲マンション「グランドメゾン浄水ガーデンシティ フォレストゲート」
(三菱地所レジデンス株式会社、福岡商事株式会社、西部ガス都市開発株式会社、清水建設株式会社、フィールド・フォー・デザインオフィスとの共同受賞)
- 賃貸マンション「プライムメゾン下北沢」
(株式会社坂倉建築研究所との共同受賞)



engawa KYOTO



グランドメゾン浄水ガーデンシティ フォレストゲート(福岡市中央区)

<https://www.sekisuihouse.co.jp/library/company/topics/2020/20201001.pdf>

編集方針

積水ハウスグループ概要

過去10年間の財務・非財務ハイライト

Ⅰ. ビジョン ESG活動方針

トップコミットメント

グループの全体像(企業理念と価値創造の歴史)

NEXT SEKISUI HOUSE「30年ビジョン」

2050年を見据えたリスクと機会

積水ハウスグループのマテリアリティ

サステナビリティビジョン2050

ESG経営の推進体制

ステークホルダーエンゲージメント

参画中の主たるイニシアチブ・団体等

2020年度社外からの主な評価

新型コロナウイルスへの対応

新型コロナウイルスへの対応

新型コロナウイルスへの対応(ステークホルダー別)

新型コロナウイルスの世界的な流行に対して、2020年4月に新型コロナウイルス感染症対策本部を設置し、国内外の積水ハウスグループの従業員とその家族の安全確保と事業継続の両立を目指した対応に努めてきました。

お客様・営業拠点への対応

2020年

- 1~2月** 中国の当社拠点(瀋陽市・蘇州市・無錫市)支援のためマスク(約4万枚)・消毒液提供
- 3・9月** 「住まいの参観日」開催に際し、マスク・消毒液を各事業所に配布
- 4月** 緊急事態宣言対象エリアでのお客様対応の基本方針策定
在宅で住まいづくりを検討できる「おうちで住まいづくり」スタート
- 6月** 自宅に居ながらスマートフォンやタブレットを使ってメンテナンスのプロ(当社従業員)に相談ができる「おうちでメンテナンス」スタート
- 7月** 非接触体温計を支店・展示場拠点全てに配布
- 12月** 換気・空気清浄・プランニングを一体化して見える化した次世代室内環境システム「スマート イクス」発売開始

従業員・協力会社(積水ハウス会)への対応

通知発信(2021年1月末時点)

- 従業員向け17報(新型コロナウイルス感染症対策本部)
- 施工従事者向け10報(施工本部、品質安全推進部)

一般感染対策

- 手洗い、うがい、咳エチケット、マスク着用、アルコール消毒、人混みを避ける、発熱等の症状が出たら休む
- 全事業所及び協力工事店(施工従事者)向けにマスク配布
当社グループ拠点: 約23.5万枚
協力工事店(施工従事者): 約56万枚
- 従業員同士の会食や昼食は、参加人数の多寡にかかわらず控える

在宅勤務・スライド勤務

- 人との接触機会を7~8割削減するため、在宅勤務を推奨(各事務所の在席率を3割以下に) / スライド勤務による混雑した公共交通機関の利用回避(午前7~11時で15分単位のスライド出社可) / 事務所には飛沫防止用のアクリル板を設置

※市中の感染状況によって対応に濃淡はありますが、数値は最も厳しい措置の時の記載しています。

WEB会議利用状況

積水ハウスグループでは2013年からiPadの全社活用を推進し、2万台を超えるモバイルツール(iPadなど)をグループ従業員に配布してきました。開発した社内オリジナル業務アプリは200を超えています。iPadを最大限に活用することで、大幅な業務の効率化や情報活用精度の向上、外出先など場所を選ばず、さまざまな情報にアクセスできる環境での働き方を実現してきました。新型コロナウイルス流行の局面でもこのような素地があったことが奏功し、リアル対面に頼らないお客様との折衝など、持続可能な事業継続に大きく貢献しました。

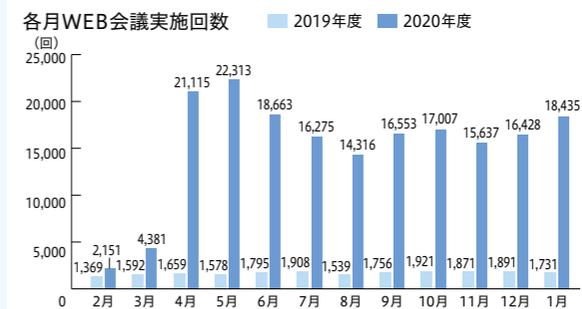
出張・集合研修・社内会議(打ち合わせ)

- 感染拡大地域を出発地もしくは目的地とする出張は原則禁止、海外出張は国を問わず原則延期
- 集合研修は原則禁止、集合形式の社内会議(打ち合わせ)は人との間隔を1m以上確保できる場合のみ実施可(WEB会議の活用や参加者を減らす等、従業員同士の接触は極力避けるよう留意)

取引先への対応

2020年

- 2月** 中国の一部都市がロックダウンしたことにより、サプライヤーが中国より調達している部材をリストアップ。以後、海外調達部材の供給状況や納期影響を随時確認。
- 2~4月** 納期影響が判明したキッチンやトイレ等の供給情報をサプライヤー及び関係部署と共有し、納期遅延の最小化を図った。



編集方針

積水ハウスグループ概要

過去10年間の財務・非財務ハイライト

Ⅰ. ビジョン ESG 活動方針

トップコミットメント

グループの全体像(企業理念と価値創造の歴史)

NEXT SEKISUI HOUSE「30年ビジョン」

2050年を見据えたリスクと機会

積水ハウスグループのマテリアリティ

サステナビリティビジョン2050

ESG 経営の推進体制

ステークホルダーエンゲージメント

参画中の主たるイニシアチブ・団体等

2020年度社外からの主な評価

新型コロナウイルスへの対応